

セミナーのお知らせ

「マラリアワクチン研究の最前線」

坪井 敬文 先生

愛媛大学無細胞生命科学工学研究センター長

日時

平成25年 2月14日 (木) 18:00 - 20:00

場所

基礎研究棟 1階大学院セミナー室

熱帯・亜熱帯地域に広く分布するマラリアは、マラリア原虫により引き起こされる重篤な感染症であり、ハマダラ蚊により媒介される。現在、薬剤耐性マラリア原虫が世界中に拡散し、マラリア対策は困難に直面している。そこで、新薬の開発とともにマラリアワクチンの開発が緊急の課題と考えられてきたが、未だ実用化されたものはない。また、現在臨床試験中のワクチン候補ですら30-50%の防御効果を示すにとどまっている。そのため、より有効なマラリアワクチンの開発のために、新規ワクチン候補分子の探索が必須となっている。我々は2002年に公開されたマラリアゲノム情報を基に、ポストゲノムワクチン候補抗原の探索に着手した。マラリア原虫分子の組換えタンパク質合成は、大腸菌等既存の系では困難であることが知られていたため、当センターで開発された真核型組換えタンパク質合成法であるコムギ胚芽無細胞法を用いて新規マラリアワクチン抗原の同定を行ってきた。本講演では、これまでのマラリア対策の歴史から現在のワクチン開発の最先端までを概説する。

連絡先： 山田浩司 (生化学)

(TEL : 235-7125 E-mail : hiroyama@md.okayama-u.ac.jp)

大学院生、ARTプログラム科目等履修生のみなさま：

本セミナーは院生用講義「研究方法論」の授業とみなすことができます。「研究方法論」を履修中の大学院生で、この特別講義に参加された場合、単位認定の対象となります。出席記録に開催者認印をもらって下さい。